

# 岩手で輝く 女性たち

The women  
lighting up  
Iwate



女性が輝くと  
岩手は変わる



岩手県／いわて女性の活躍促進連携会議

# 女性が活躍できる場を広げながら、 一人ひとりが自分らしく輝ける岩手へ！

岩手県では、少子高齢化社会において、人口減少が進む中、様々な状況におかれた女性が自ら希望を実現して、個性と能力を発揮でき、男性も女性もすべての人にとって働きやすい社会をつくることを目指しています。

また、東日本大震災津波からの復興や地域活性化においては、オール岩手での取組が必要であり、特に女性の活躍が求められています。

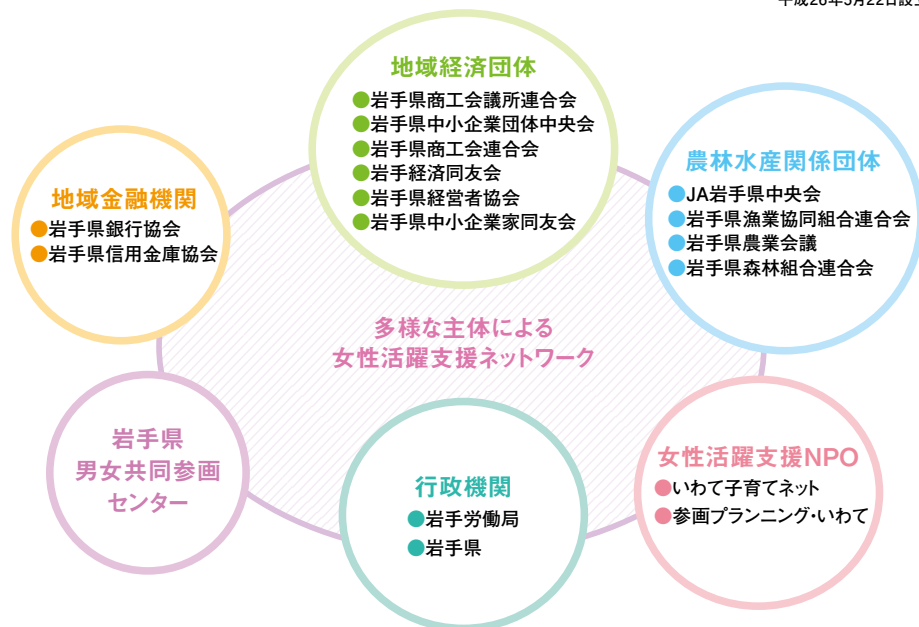
平成26年5月に官民連携組織である「いわて女性の活躍促進連携会議」を設置し、産業団体や経済団体と連携し、地域社会全体が女性の活躍に関心を高められるよう取組を進めています。

この「岩手で輝く女性たち～The women lighting up Iwate～」は、企業や団体の女性活躍に向けた取組を「見える」ようにし、自主的な取組が他の企業等に波及していくことを期待して作成しました。

平成27年9月に、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が施行されるなど、女性を取り巻く環境が変化しており、岩手県では平成28年3月に改訂した「いわて男女共同参画プラン」に新たに「女性の活躍支援」を掲げ、女性をサポートする様々な取組を進めています。

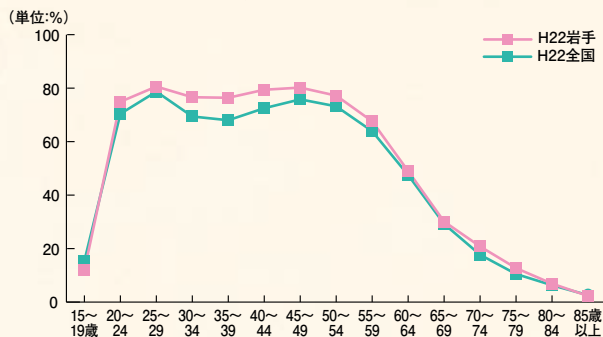
## ～いわて女性の活躍促進連携会議～

平成26年5月22日設立



## 年齢階級別労働力率

### 年齢階級別労働力率(女性)



女性の労働力率は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描いています。

⇒ 出産・育児を機にいったん離職し、その後育児が終わってから再び働き出す女性が多いことを反映しており、女性が働き続けられる環境の整備や経営者の理解が求められています。

国勢調査(総務省)

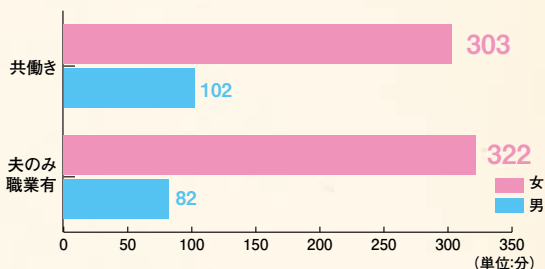
## 夫婦の家事時間

「共働き」世帯でも、「夫のみ職業有」世帯でも、夫の家事時間は妻の約3割にとどまっています。

⇒ 家事時間の負担は女性に偏重しており、男性の家事などに参画することの意義・必要性について意識啓発を図ることが必要です。

※家事時間には、育児・介護・看護の時間も含む

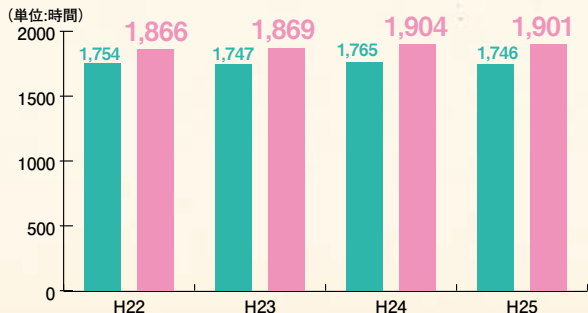
### 夫婦の家事時間



平成27年 県の施策に関する県民意識調査(岩手県)

## 労働時間

### 都道府県、産業別1人平均年間実労働時間数(事業所規模5人以上)(調査産業計)



平成25年の岩手県の1人平均年間実労働時間は、全国平均より155時間多くなっています。

⇒ 男性も女性も育児・家事等と仕事を両立しつつ、能力を十分に発揮できるよう長時間労働の削減などの働き方の見直しが必要です。

岩手県  
全国

毎月勤労統計調査(厚生労働省)

# 女性リーダーの登用で職場を活性化！ .....



夕顔瀬支店の業務課長として活躍する市丸美沙さん。

## キャリアアップで、自分の可能性にチャレンジする

銀行業界の中でもいち早く女性を管理職に登用し、女性のキャリア形成や職域拡大を推進している東北銀行。現在、60名を超える女性管理職が活躍していますが、夕顔瀬支店で業務課長を務める市丸美沙さんもその一人。

「部下を率いて目標を達成していく管理職の仕事は大変ですが、チャレンジすることが自分自身の成長につながります。子育てと課長職の両立にしても、私自身がいい意味での“前例”にな

れば」と、市丸さん。例えば、学校行事の参加のために有休を使う場合も、男性管理職は消極的な行員が多いもの。市丸さんが率先することで、職場に休みを取りやすい雰囲気をつくることができると言います。

「女性管理職だからできることはまだまだあるはず」と話す市丸さんは、細やかな気遣いで部下たちをサポート。着実にキャリアを積みながら、新たな可能性にもチャレンジしたいと考えています。

## 女性の活躍を支える取組

## 意欲のある契約行員を正行員に登用

結婚などで退職しても、これまでの経験と能力を活かしてもらうため契約行員として再雇用しています。意欲のある契約行員を正行員に登用する制度もあり、多くの行員がチャレンジ。なかには契約行員を経て管理職についている女性行員もいます。



## 家庭の状況に合わせて勤務地を選択

個々のライフスタイルに合わせ、勤務地を自宅から通える範囲に限定した「エリア行員」と、勤務地を限定せずに働く「フリー行員」を選択できる制度があります。6ヶ月毎に要望を聞き、希望すればエリア行員からフリー行員に転換し、さらに上のキャリアを目指すことも可能です。



## 支店長や部課長に女性を積極登用

東北銀行は早くから女性の管理職の登用に取り組んでおり、現在6名の女性支店長と56名の女性課長が活躍しています。盛岡市内には女子行員だけで業務を行う支店が4店舗あり、細やかな気配りと丁寧な応対がお客様にも好評です。



## 人事部長からのメッセージ



東北銀行人事部部长・千葉泰之さん

男性より女性が多い職場でもありますので、女性行員は大切な人材であり、大きな力となっています。彼女たちに長く働き続けてもらうための制度の充実はもちろん、個々の能力を活かしキャリアアップできる機会を設けています。

最近では職域もさらに広げ、預金業務だけでなく、渉外や融資なども女性行員が担当。丁寧に対応してくれると、お客様からも好評です。男女にかかわらず誰もが働きやすい職場づくりを目指すことで、行員をサポートしていきたいと考えています。



# 仕事と子育てを両立できる支援を充実 ……………



1年間の育児休業を終え、子育てと仕事の両立に励む副店長の小川智子さん。

## 仕事と家庭を両立することが「当たり前」の職場へ

「いわて子育てにやさしい企業」として、先進的な取組を行っている平金商店。出産で退職する社員はほとんどなく、多くのママ社員が仕事と家庭を両立しながら働いています。

パステル館で副店長を務める小川智子さんも、1歳の子どものママ。「まだ子どもが小さいので、短時間勤務や看護休暇など、制度をフル活用しています。急な発熱の時も“お互い様”という意識が浸透しているので、気兼ねなく休めるのがあ

りがたい」と話します。店の運営を担うのは店長ともう1人の副店長、そして小川さんの3人。仮に2人が休んでも常に1人が店を取りしきれる体制を整えています。

「短時間勤務のため効率良く仕事を進められるよう意識しています。店長をサポートしながらいろいろな企画にも挑戦していきたいですね」と、小川さん。安心して働ける制度の充実が、社員の意欲につながっています。

## 女性の活躍を支える取組

## 自分で選択できるゆとりの育児休業

平金商店の育児休業は、最長3年間。実際の平均取得は約1年ですが、子育てにじっくり専念したい社員がいればそれを実現できる環境を整備。自らの生き方働き方に合わせて選択できる「ゆとり」と「安心感」を制度として用意しています。



## 仕事も家庭も大事にできる制度を充実

子どもが就学する前まで利用できる「時短勤務制度」や、急な病気の際に利用できる「子の看護休暇」、1時間単位で取得できる有給休暇など、様々な制度が充実。数時間だけ学校行事に参加したい時など便利に使えると、好評です。



## 女性も男性も働きやすい職場づくりを

上記制度に加え、男性社員に対し妻の出産時に付与する「お祝い休暇」、週1日のノー残業デーなど、家族との時間を大切にできる制度も取り入れています。仕事も家庭も充実した豊かな人生を送れるよう、さらなる職場改善に取り組んでいます。



## 社長からのメッセージ



株式会社平金商店社長・平野佳則さん

特に女性のためだけではなく、どの社員も働きやすい職場づくりを進めることが当社のモットー。毎年「自己申告書」に、子育てや家庭のこと、困っていることなどを記入してもらい、社員の声を制度の充実で反映するようにしています。

当社には様々な支援がありますが、社員の利用状況をみながら改善を加えるなど、常に現在進行形。今後は子育てだけでなく、介護や病気の治療と仕事を両立できる支援も考えていかなければなりません。できることから一つずつ、挑戦していきたいと思っています。

# 酪農家の女性たちが楽しく元気に活動中！



ミルクレディースの部長を務める堤内ひろみさんと娘さんの裕子さん。

## 女性同士のつながりで、酪農の仕事に活力を！

「女性の方で酪農を元気にしよう」と、頑張る女性たちがいます。久慈市・洋野町・野田村・普代村のくじ酪農生産部会女性部を母体とする、『ミルクレディース』です。

岩手には様々な酪農家の女性グループがありますが、ミルクレディースの設立は昭和62年。県内でも早くに立ち上がり、視察研修や乳製品のPRなど様々な取組を行っています。「同じ立場の者同士で、悩みを相談したり励まし合ったり、

息をつける大事な場」と話すのは、部長の堤内ひろみさん。最近は酪農の活動だけでなく、料理や体操を楽しむ教室の開催や、他業種の女性グループとの交流会も盛んです。

「みんなで趣味的なことを楽しんだり他業種の女性たちと交流することは、とても刺激になりますし、元気をもらえます」と、堤内さん。新たな出会いや経験が、女性たちの仕事の活力につながっています。



### 新たな学びを得る研修旅行

酪農の勉強のために毎年行っているのが、先進地研修。画期的な取組をしている酪農家や農家レストランなどを視察し、そのノウハウを学んでいます。また、他業種の女性グループとも交流を広げ、互いの活動を学び合いながら、新たな刺激とヒントを得ています。



### 環境整備を通して地域に貢献

ミルクレディースが生乳を出荷する「おおのミルク工房」は、久慈広域で唯一の牛乳・乳製品工場。工房の花壇の世話や周辺の草刈りなど、メンバーで協力し合いながら環境整備に取り組んでいます。作業を終えた後は懇親会、酪農家同士の交流を深めています。



### 出前授業で食育をサポート

食の大切さを子どもたちに伝えるため、ミルクレディースは小学校への出前授業に協力しています。授業に本物の牛を連れていき、牛の話や酪農の話聞かせると、子どもたちの目はきらきら輝くのだとか。生産者だからできるユニークな授業を通し、食育をサポートしています。



### 女子会で酪農をもっと楽しく！

もっと気軽に集まって、お茶っこするのもいいんじゃない？そんな発想から誕生したのが、年に3回行っている「楽農女子会」です。料理教室、体操教室、リースづくり教室など、テーマはいろいろ。趣味を楽しむだけでなく、世代間交流の場もなっています。



## 女性技術者に活躍の場を！

Case  
04

宮城建設株式会社



明るい性格で現場作業員にも親しまれているという小笠原千尋さん。

### 男性の多い土木業界に 女性技術者の道を切り拓く

港湾漁港・土木・建築など幅広い事業を手がける宮城建設では、2名の女性技術者が活躍しています。その一人である小笠原千尋<sup>ちなみ</sup>さんは、土木課で現場管理を担当。現在、久慈地域で県道の整備に携わっています。「技術者としてはまだ半人前ですが、手がけた仕事が地域の役に立っていることがうれしいですね」と話す小笠原さんは、事務所のムードメーカー。細やかな気遣いで周囲をサポートしながら、女性技術者の先達として道を切り拓いています。



#### 取組のポイント

#### ① 先輩社員が相談役として新入社員を指導

配属部署とは別に、年齢や社歴の近い先輩社員が新入社員の指導を担当する、メンター制度を導入。小笠原さんには1年上の女性社員がつき、いろいろな相談に乗ってくれました。

#### ② 段階的に社員の成長をフォローアップ

入社後から仕事が一通り身につく3年目まで、段階的にスキルアップできるよう半年に1回フォロー研修を実施。仕事だけでなく、同期同士の交流を深める場にもなっています。

#### ③ 女性が働きやすい職場を当たり前

産休・育児休業制度をはじめ、技術部門での職場サポートなど、女性が働きやすい環境づくりを進行中。個々の能力をフルに発揮し、生き生きと働ける職場づくりを目指しています。

#### 常務からのメッセージ



にいやひろゆき  
常務取締役・新屋廣行さん

女性技術者が少ないこともあり日々環境改善に取り組んでいますが、女性でも意欲的に活躍できる場とチャンスを広げたいと思っています。技術者は転勤も多いので、結婚・出産後も働ける職場づくりが課題。相談しながらベストな方法を考えていきたいと思います。



社内に新風を吹き込む小野寺和江さん(右)と宮澤麗子さん(左)。

## 女性社員の活躍が刺激を与え、 社内のモチベーションをアップ

世界初の特許技術で「自動ネジ供給機」を30カ国以上に輸出する、大武・ルート工業。圧倒的に男性社員が多い中、設計・製造部門で奮闘しているのが小野寺和江さんと宮澤麗子さんです。小野寺さんは正確な仕事で産業機械の設計を担い、宮澤さんは持ち前のバイタリティで工場内の環境整備を推進中。少人数ながら女性社員が力を発揮することで、職場の空気も少しずつ変化。仕事の活性剤となって会社全体に活気が生まれています。



### 取組のポイント

#### ① 技術者教育を柱に開発力を向上

社員44名のうち開発部門に11名を配置する大武・ルート工業は、技術者の育成を重視。小野寺さんが唯一の女性技術者ですが、意欲があれば女性にも挑戦の扉が開かれています。

#### ② 外部研修を利用し女性管理職を育成

管理職としてのノウハウを身につけるため、女性社員の中では初めて、宮澤さんが管理職研修に参加。宮澤さんのリーダーシップが期待されています。

#### ③ 時間単位の有給休暇で社員をサポート

有給休暇を時間単位で取得できるのも、働きやすい職場づくりの取組の一つ。数時間だけ休みを取れるため、子どもの学校行事にも参加しやすく、使い勝手がいいと好評です。

### 工場長からのメッセージ



工場長・浦川幸次さん

男女の区別なく能力を一番重視していますが、組み立てなどの仕事は女性社員のほうが巧いんです。これまでのアシスタント的な仕事ではなく、今後は最後まで任せられる人材を育てたい。プライドと責任感を持って働くプロになってほしいですね。



## 農業に新しい風を！

Case

06

盛岡広域ヤングファーマーズ・CREEIGHT  
(クリエイト)  
事務局長・山本早苗さん



若手農業者たちと連携しながら、農業を盛り上げる山本早苗さん。



黒平豆の栽培によって特産品の開発も進んでいる。



毎月1回、盛岡市大通で「プラスワンマルシェ」を開催中。

## 新たなネットワークで、未来の農業と地域を育てる

「もっと多くの人に食の大切さと農業の価値を伝えていきたい」、そんな思いから若手農業者たちと様々な活動を行っている山本早苗さん。専業農家を営むご主人との結婚を機に、農業の素晴らしさに目覚めたと言います。

「人の根本をつくる食を生み出すのが農業。改めてその尊さと大切さを実感しました」と、山本さん。地域の在来種・黒平豆を特産物として復活させる活動をはじめ、盛岡広域圏の農業女子たちと『ファーマーズガール』を結成したり、

若手農業者と消費者をつなぐマルシェを開催したり、東京と岩手の農業をつなぐ企画を進めるなど、多方面で活躍しています。また、昨年から地元・玉山区で農商工に携わる仲間たちと『TAMAYAMAX』という団体を立ち上げ、地域を盛り上げる活動もスタート。

「個々の力だけでは農業も地域も守ることはできません。人とのつながりを広げながら、新たな形をつくっていければ」。そう話す山本さんの目は、次のチャレンジへと向けられています。



## 女性の力で地域に貢献！

Case  
07

岩手町農業委員会

### 女性の力を結集し、もっと農業を元気に

「意思決定の場に女性が多ければ、女性の声で農業を変えることができます」と強調するのは、県内初の女性農業委員会会長である松本良子さん。地道に活動しながら、女性の登用を



「今後は新規就農者へのサポートにも力を入れていきたい」と話す、女性農業委員の皆さん。写真中央は岩手町農業委員会会長の松本良子さん。

訴えてきた第一人者です。これを受けて岩手町農業委員会では、女性の活動を重要な柱に位置づけ、現在6名の女性農業委員が活躍。彼女たちの意見・提言が委員会の事業計画や活動に反映されるほか、自ら率先して家族経営協定の啓発活動や遊休農地の活用に取り組むなど、柔軟な発想と行動力で地域課題の解決にも貢献しています。こうした岩手町の女性たちの活躍が刺激となって、平成27年度には全市町村で女性農業委員の登用が実現。女性たちの力が農業に変化をもたらそうとしています。

Case  
08

読書ボランティアおはなしころりん  
代表・江刺由紀子さん

### 本のチカラで心をつなぎ、 地域をつないでいく

読み聞かせは本の楽しさを伝えるだけでなく、心を癒し、人をつないでくれるもの。大船渡市で読者ボランティア「おはなしころりん」を主催する江刺由紀さんは、震災後の避難所を回りながらそんな確信を持ちました。「読み聞かせで交流のあった私たちが行くと子どもたちは大喜び。本でつながった信頼関係を活かし、できることをやってみようと思ったんです」。江刺さんたちは、小学校を中心とした移動こども図書館や、仮設住宅での読み聞かせ講座などを実施。参加した高齢者が子どもに読み聞かせを实践するサポートも行い、生き甲斐づくりにつなげています。「本



読者ボランティアおはなしころりんのスタッフの皆さん。代表の江刺由紀子さん(前列・中央)は、この活動をきっかけに、女性防災リーダーが集う国際シンポジウムにも参加した。

を通して生まれた人のつながりは、地域再生にも防災にも活用できるはず」。本から始まる復興活動に注目が集まっています。

# 平成27年度 いわて女性の活躍促進連携会議の取組

## 女性自身のキャリアアップ

### 女性のためのキャリアアップセミナー

キャリアアップを目指すには、自ら職場や取引先などから求められる役割を考え、主体的に仕事を動かしていくスキルを身に付けることが必要です。ビジネスで必要なスキルを学ぶ研修を開催しました。

#### 「キラキラ輝く私になる!

##### 働く女性のためのキャリアアップセミナー」

講師：Coaching Office代表 平野順子さん

第1回「関係性づくりと人材育成のためのコーチング」(H27.12.10開催)

第2回「より効果的に伝えるためのプレゼンテーション」(H28.1.14開催)

第3回「建設的な会議運営のためのファシリテーション」(H28.2.4開催)

講師：平野順子さん



## ロールモデル提供事業

様々な分野で活躍する女性たちによる自身の仕事に対する考えや経験の発表を通して、学生や若手女性社員が将来目指したい姿を考える機会を提供しました。

ロールモデル提供講師派遣企業：(株)岩手銀行、(株)東北銀行、信幸プロテック(株)、日本インフォメーション(株)、千住スプリングラー(株)、(株)岩手ホテルアンドリゾート、(株)ポーラ、(公財)岩手県予防医学協会(H28.1.13、2.10、2.16開催)



## 男性のためのワーク・ライフ・バランスセミナー

「ワーク・ライフ・バランス」は、女性だけの問題や共働き家庭だけの問題ではありません。男性にとってのワーク・ライフ・バランスを考えるセミナーを開催しました。

#### 「ぼくらの時代の働き方を考えよう」(H28.1.20)

講師：NPO法人ファザーリング・ジャパン東北

理事 後藤大平さん

講師：後藤大平さん



# The women lighting up Iwate

## 3 女性活躍のための経営者研修

女性の活躍を後押しするには、その重要性を企業等の経営者や管理職が認識し、理解を深める必要があります。業績など経営面、企業マネジメントの面においても女性の活躍を推進する経営戦略的な意義を考え、関心を高めることを目的に開催しました。

「今、求められる経営戦略とは  
～鍵を握るのはトップリーダー～」(H28.1.12)

講師：内閣府少子化社会対策大綱を踏まえた結婚・子育て支援の推進に関する検討会 座長代理 渥美由喜さん

講師：渥美由喜さん



イクボスとは、部下の私生活と将来のキャリアを理解し応援しつつ、自分自身もワーク・ライフ・バランスを満喫し、組織の長としての職責も全うする者です。イクボスが率いる組織は、上司も部下も仕事能力やチームワークが向上し、組織力、業績が向上します。企業トップ、管理者の意識啓発を目的として開催しました。

「ライフ&コミュニティ講演会  
イクボスで事業も笑顔も共にアップ!  
～会社も、社員も、子どもも…みんなHappyに～  
(H28.2.16北上市、2.17一関市)

講師：NPO法人ファザーリング・ジャパン 理事 川島高之さん

講師：川島高之さん



## いわてイクメンハンドブック パパも主役 ～子育てを楽しもう～

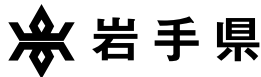
岩手県では、新しくパパになる方などに向けて、出産、産後、子育てなどに役立つ情報を掲載した「いわてイクメンハンドブック」を作成しています。「いわてイクメンハンドブック」は、こちらからダウンロードしてご覧になれます。

<http://www.pref.iwate.jp/kosodate/shoushika/034845.html>



岩手で輝く  
女性たち

The women  
lighting up  
Iwate



岩手県環境生活部若者女性協働推進室  
(青少年・男女共同参画担当)

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1  
TEL:019-629-5346 FAX:019-629-5354  
E-mail AC0006@pref.iwate.jp